

前年より増加企業目立つ

2019年度プレカットランキング

軸組プレカット工場19年度加工実績

順位	プレカット企業名(決算月)	年間加工実績	
		坪	前年比(%)
1(1)	ボラテック(3月)	1,348,867	104
2(2)	テクノウッドワークス(12月)	528,500	99
3(3)	中国木材(6月)	452,900	108
4(4)	江間忠ホールディングス(3月)	235,000	97
5(5)	ハイビック(ヤマエ久野G、3月)	227,300	95
6(一)	OCHIホールディングス(3月)	222,000	99
7(6)	宮本工業(9月)	207,000	109
8(11)	マツシマ林工(8月)	188,408	112
9(8)	ワイテック(ヤマエ久野G・3月)	175,504	107
10(7)	原田木材(6月)	166,000	93
11(9)	シー・エス・ランパー(5月)	165,650	102
12(10)	ナイスプレカット(3月)	135,000	104
13(一)	院庄林業(12月)	132,000	110
14(13)	ナカザワ建販(4月)	123,635	104
15(16)	柴産業	119,000	108
16(14)	山西 プレカット事業部(3月)	118,052	100
17(一)	かつら木材商店グループ(11月)	116,961	—
18(18)	大森木材(3月)	116,063	—
19(15)	タツミ(8月)	114,968	107
20(一)	佐藤木材工業(3月)	112,290	99
21(19)	イタヤ(12月)	105,000	103
22(一)	恒栄資材	102,000	—
23(一)	大島木材(4月)	100,000	—
24(17)	アイタ設計(3月)	94,914	91
25(20)	セブン工業(3月)	93,853	99
26(12)	スカイ(3月)	93,000	86
27(21)	大三商行(3月)	88,442	94
28(22)	ゼネラルリプテック(3月)	87,119	101
29(25)	長谷川萬治商店(3月)	80,166	107
30(26)	ウッディーコイケ	80,000	—
31(24)	福栄(12月)	76,611	95
32(27)	けせんプレカット事業協組(3月)	75,962	105
33(28)	マルタイ(12月)	74,127	106
34(30)	材惣木材(3月)	70,000	103
35(33)	山本進重郎商店(3月)	65,127	113
36(31)	村上木材(11月)	63,267	100
37(一)	吉貞	60,000	105
38(37)	大日本木材防腐(3月)	59,956	115
39(41)	東海プレカット(7月)	59,316	96
40(一)	テクセル(8月)	58,553	105
41(34)	ウッドリンク(3月)	57,500	98
42(一)	ハウステクノ	55,200	—
43(一)	岡本銘木店(5月)	54,077	—
44(一)	ウッディパーツ(3月)	53,000	106
45(43)	朝間商会	50,377	108
46(39)	須山木材(7月)	50,000	96
46(一)	ホクザイ(10月)	50,000	105

※回答企業別にグループ・子会社の別なデータを掲載している。ONは昨年の記録、Dはグループ内の他の会社を含む。Hはグループ内の他の会社を含む。Yはグループ内の他の会社を含む。Cはグループ内の他の会社を含む。Mはグループ内の他の会社を含む。Pはグループ内の他の会社を含む。Sはグループ内の他の会社を含む。Tはグループ内の他の会社を含む。Aはグループ内の他の会社を含む。Eはグループ内の他の会社を含む。Iはグループ内の他の会社を含む。Oはグループ内の他の会社を含む。Uはグループ内の他の会社を含む。Fはグループ内の他の会社を含む。Gはグループ内の他の会社を含む。Jはグループ内の他の会社を含む。Kはグループ内の他の会社を含む。Lはグループ内の他の会社を含む。Nはグループ内の他の会社を含む。Xはグループ内の他の会社を含む。Zはグループ内の他の会社を含む。

戸建て堅調、機械更新も盛ん

本紙がプレカット会社を対象とした2019年度木造軸組プレカットの加工実績調査（アンケート回答約70社）によると、60%超の企業が前年の加工量を上回った（前回は約50%が前年を上回った）。特に年間10万坪超と、同5万〜8万坪の工場群が目立って坪数を伸ばしている。18〜19年は貸家が減少したが、戸建て分譲と持ち家が堅調だった。ランキングに登場する工場は着実に機械の更新を進めている。ただ地域によっては新型コロナウイルスで受注減が目立ち始めており、今年の加工実績に影響しそうだ（70社の一覧表は11面に掲載）。

前回のアンケートでは多かったものの、19年度は増加した企業が目立った。18年度同様は前年比横ばいの企業が多かったものの、19年度のプレカット市場は戸建て分譲がけん引した。この3年、貸家の需要がけん引された。この3年、貸家の安定稼働を下支えした。

が大幅に減り続けているため全体の戸数は減少傾向にあるものの、木造住宅の床面積は19年度も横ばい（5029万9000平方メートル、前年比0・3%増）。この3〜4年はほぼこの水準で推移し（4年平均5044万平方メートル）、これがプレカット工場

てきた。
しかし20年1〜4月は木造の戸数が14万8652戸（前年同期比9・8%減）、床面積が14335万5000平方メートル（同9・1%減）と、前年比で約1

アンケートの回答企業約70社の19年度加工坪の合計は約758万坪（前回は約758万坪、前回は約60社で680万坪）で、各社前年比の平均は102%（前回99%）。単純に1戸30坪として計算すると、70社で約25万2700戸を加工していることになる。

また、非住宅は30万8549坪で、多くの工場が前年の実績を上回っている。近年、先行きの住宅市場縮小を危惧し、積極的な設備投資や営業体制を構築してきた効果が表れている。新型コロナウイルスによる住宅市場の減退で、この動きは加速しそうだ。

加工実績のランキングは、引き続きポラテックが突出し、ついに130万坪を突破した。どこよりも早く、自社製の機械も含めて無人ロボット化を推進し、革新を続けている。地震が走ってもおかしくない情勢にある。

加工実績のランキングは、引き続きポラテックが突出し、ついに130万坪を突破した。どこよりも早く、自社製の機械も含めて無人ロボット化を推進し、革新を続けている。地震が走ってもおかしくない情勢にある。